



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

アフリカ大陸の南端、南アフリカ・ヨハネスブルグでも、われわれ稲門会員は声をかけながら「都の西北」を歌っています！ これまで30有余年、集まり散じて人は変われど、この地で稲門会の火を燃やし続けているのです。時に「えっ、国教って何？」などと言いながら、上

は80代、下は20代の卒業生たちが酒を酌み交わし、稲門会旗を仰ぎ見えています。お近くにお越しの際には(少々遠いですが)、ぜひお立ち寄りください。ヨハネスブルグ稲門会が大歓迎いたします。

高橋和之(1982年政経)

会員からのメッセージ

会社人生活三十数年。2度目の海外駐在地である、ここヨハネスブルグで、徐々に早大出身であることを実感しています。この地においては企業単位でのゴルフ、ソフトボールなどの対抗戦が盛ん。その際には稲門会メンバーも敵味方に分かれ、容赦ない戦いを演じますが、一度集えば和気あいあい。最大のイベントである早慶ゴルフ対抗戦では一致団結して勝利を目指します。そんな思いをさせてくれるヨハネスブルグ稲門会に大感謝です。

吉川弘芳(1983年商学)

“It always seems impossible until it's done.” Nelson Mandela (1918-2013)
2018年は、アパルトヘイト(人種隔離)政策の撤廃に力を尽くし、1994年南アフリカ初の全人種選挙で大統領に選ばれたネルソン・マンデラ氏の生誕100年です。マンデラ氏の数々の名言の中でも私が好きなのがこの言葉。27年間という時間を獄中で過ごした彼のこの言葉には重みがあります。この言葉を胸に早慶戦の必勝を期して、日々精進。
八尾尚史(旧姓:山本)(1985年法学)

早稲田といえばラグビー、ラグビーといえば南アフリカ。ヨハネスブルグは南アフリカ強豪チームの本拠地です。先のワールドカップでの日本VS南アフリカ戦の勝利以来、在住邦人は鼻が高いです。特に24得点を挙げた校友の五郎丸選手はわれらラグビー蹴球部OBの誇りです。今では当地でスーパーラグビーのサンウルブズ戦もあり、校友の活躍を間近で見ることができます。

和泉聡明(1998年商学)

海外3カ所目の駐在地であるヨハネスブルグで、初めて海外の稲門会に出会いました。当地の数あるイベントの中で、個人的に一番盛り上がるのは慶應とのゴルフ対抗戦です。残念なことに昨年惜敗し、今後1年は慶早戦と呼ばないといけない悲しい状況になっています。一日も早く早慶戦と呼べるよう、稲門会を盛り上げていきます！ もう一つ、私が所属している稲泳会のアフリカ支部を作るのも夢です。

渋谷和晃(1994年文学)

南アフリカに赴任して4年がたちますが、毎日新しい発見の連続です。スポーツが活況であり、週末は、特にテニスにおいては地域住民の方たちとの交流会や日系企業対抗戦が定期的に行われています。その参加者たるや100人規模で、さながら早大12大サークル団体戦の熱さをほうふつとさせます。ぜひ、スポーツに最適な南アフリカにお越しいただき、また早稲田魂を思い出してください。

森野岳宏(2003年理工、05年工研修)

アフリカ最南端で抜群の安心感をご提供するヨハネスブルグ稲門会。「都の西北」を歌えなかった私も、垣根なく歓待してもらえました。南アフリカの4Wをご紹介します。いつでも会える「Wild life」、365日Goodな「Weather」、おいしいので試してほしい「Wine」、いつでもWelcomeな「WASEDA」メンバー。今では当然、校歌も暗唱しています。

山北和徳(2009年政経)

ヨハネスブルグ稲門会について



早慶戦(慶早戦)ゴルフにて

ヨハネスブルグ稲門会は1981年に発足しましたが、77年に私が赴任した当時にはすでに、早稲田の卒業生の集まりがありました。それからしばらくして、早慶ゴルフ対抗戦が両校幹事の話し合いで始まり、その後、稲門会はリレーのごとく、集まり散じるメンバーによって引き継がれ、今日まで立派に受け継がれてきています。南アフリカに在40年の間、政治・社会不安の中にあっても、私が常に前向きに生活を送ってこられたのは、稲門会が心の支えになってくれたからこそであり、これまで交流してきた多くの同志に感謝しています。

村瀬佐一郎(1960年商学)

ヨハネスブルグの魅力

インターネットの情報によるヨハネスブルグは「世界最恐都市」、「治安の悪さは戦時下でない地域としては世界でもワーストクラス」。われわれ日本人も車上荒らしや一般強盗に襲われることはあります。ただし、「場所・時間帯に気を付ける」という海外で居住するにあたっての一般的な注意点を厳守すれば、快適な生活を送ることができます。

人々は人懐っこく、目が合うと知らない者同士でも笑顔であいさつします。食べ物は何といてもワインとステーキ。おいしい上に、たくさん食べても懐に優しい。また、年中気候が良く、国技ともいえるラグビーやワールドカップが開催されたサッカーなど、多くのスポーツを楽しむことができます。自宅近郊に20カ所以上のゴルフコースがあるのですが、コースではさまざまな鳥を見かけますし、クジャクを放し飼いにしているクラブもあります。見事に自然と人工物が調和しているヨハネスブルグ、決して最恐都市というだけではありません。

岡崎 健(1990年政経)

(上)ヨハネスブルグゴルフ場
(下)プレトリアにある高さ9メートルのマンデラ像



プレトリアのジャカラランダの花